

声なき感染症を知る

◆75◆

今回は、感染症の「アウトブレイク」(特定の期間、地域、集団で予想されるより多く感染症が発生する)が起きた時に、「疫学調査」についてお話しします。

▽疫学調査とは

疫学調査は、行動歴や接触歴などの感染者に関する情報や病原体に関する情報を収集し、時間(発症日、結果判明日など)、人(年齢、性別、症状など)、場所(地域、施設、病棟など)に関して整理したり、実際の現場を観察したりします。これらの総

密な調査により感染者の特徴などをアウトブレイク事例の全体像を把握し、感染源、感染経路の仮説を立て、明らかになつた(あるいは可能性のある)感染源を取り除き、感染経路を遮断することで、更なる感染拡大を

▽感染者の特徴の確認とリンク(つながり)の把握

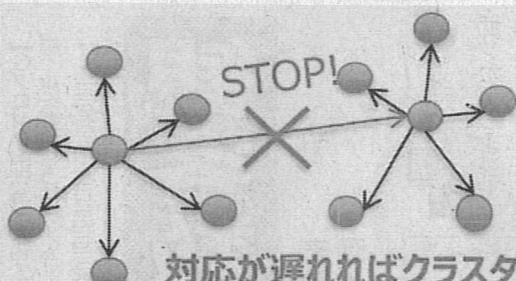
アウトブレイクを探知したら、次にその中身の確認を行います。感染者数という数字だけに注目するのではなく、「感染者はどういう特徴の人

防ぐこと、また得られた知見を生かして将来のアウトブレイク対策に生かすことを目的としています。

感染症法に基づいた疫学調査は保健所や国立感染症研究所などで行われ、国立感染症研究所には実地疫学専門家を養成する研修コースがあります。

▽サーベイランスとの関係

本欄の先月のテーマ「サーベイランス」(ある病気の発生状況や変化を継続的に監視する仕組み)は、疫学調査と密接に関係しています。疫学調査



対応が遅れればクラスターの連鎖(リンク)を生み、大規模な感染拡大につながる

リンクを見つけることの重要性を示すクラスター(感染者集団)対策の概念図(厚労省の資料から)

早期探知で被害縮小 リンクの把握が重要

防ぐこと、また得られた知見を生かして将来のアウトブレイク対策に生かすことを目的としています。

感染症法に基づいた疫学調査は保健所や国立感染症研究所などで行われ、国立感染症研究所には実地疫学専門家を養成する研修コースがあります。

▽アウトブレイクの探知

アウトブレイクは、発生した時どのように対応するのかを考えるのはもちろん重要ですが、被害を小さくするために早期発見が原則なので、そもそも探知する仕組みがなければどうしようもありません。その点に関して、個人でできることとしては日々の体調管理と体調不良時は休むこと、学校や職場が行うこととしては体調不良者の人数の把握と体調不良者は休むことを徹底することが重要です。大規模な感染者集団になつてからでは職場、さらには社会への影響が大きく、被害が大きくなつて

たちなのか」「感染経路は不明なのか、それとも既にわかっている感染者の接触者で感染することは想定範囲内なのか」、そして「どれくらいの検査をしてどういう結果だったのか」という情報を整理することが、流行状況を把握し、今後を予測する上で重要になります。

例えば、感染者の接触者以外にも、感染の疑わしい症状があつて検査している人がいるのであれば、接触者のみ陽性になつて検査している場合と感染経路が不明の人たちが多く陽性になつている場合で、同じ陽性者数であつても流行の状況は違つてきます。一部の集団だけ陽性になつている前者

はアウトブレイクを探知して行いま

すが、アウトブレイクは平時の症例数を監視すること、つまりサーベイ

ランスが機能していないと探知できません。

▽接觸者を減らすことで感染者を減らす

感染症はヒトやモノを介して伝播(でんぱ)するので、感染拡大を防ぐためには、正確な行動歴、接觸歴の把握から感染者間のリンクを推定し、その接觸者の健康観察を適切に行つて更なる接觸者を減らすことが、感染者を減らすことにつながります。

そして、飛沫(ひまつ)や接觸による伝播を減らすために、普段から手指衛生、咳(せき)エチケットといった感染対策がきちんとできているかどうかという点も重要な要素です。

感染の疑わしい症状があつて検査している人がいるのであれば、接触者のみ陽性になつて検査している場合と感染経路が不明の人たちが多く陽性になつている場合で、同じ陽性者数であつても流行の状況は違つてきます。一部の集団だけ陽性になつている前者

よりも後の方々が感染者間のリンクが見えないので、潜在的な感染者がいて今後感染が広がる可能性が高いのではないかと推測されます。